

巡回企画展のご案内

“江川式” 擬洋風建築

江川三郎八がつくった岡山・福島の風景

*“EGAWA STYLE” Quasi-Western Architecture:
Early 1900s Buildings by Saburohachi Egawa in Okayama and Fukushima*

会期：＜大阪＞2019年12月6日(金)～2020年2月18日(火)

＜東京＞2020年3月5日(木)～5月23日(土)

会場：LIXILギャラリー



写真1：旧亀岡家住宅（1904年、1995年に福島県伊達市に移築、国指定重要文化財）
正面中央の八角形の塔屋、二基の尖塔や玄関まわりに洋風を感じさせる。内部は純和風の書院造り。施工は地元の大工、小笠原國太郎、設計は江川三郎八が関わったとされる。江川にとっては数少ない個人邸の例。
撮影：小野古彦



「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリー（大阪会場）の企画展では、大阪：2019年12月6日（金）～2020年2月18日（火）、東京：2020年3月5日（木）～5月23日（土）の期間、「江川式、擬洋風建築 江川三郎八がつくった岡山・福島の風景」を開催します。

元堂宮大工の建築技師・江川三郎八が、明治から昭和にかけ福島と岡山で手がけた擬洋風建築の数々。公共から商業建築まで幅広く、両県に西洋の風をもたらしました。意匠やプロポーションに共通性が見られる江川の建築は「江川式」とも呼ばれます。本展は、神社を含む現存の9作品を中心とした「江川式、擬洋風建築を、撮り下ろし写真や古写真、また模型他実資料など約80点で紹介し、知る人ぞ知る江川式建築の存在に迫ります。

開催概要

「江川式、擬洋風建築 江川三郎八がつくった岡山・福島の風景」

“EGAWA STYLE” Quasi-Western Architecture:

Early 1900s Buildings by Saburohachi Egawa in Okayama and Fukushima

会 期	＜大阪＞：2019年12月6日（金）～2020年2月18日（火） ＜東京＞：2020年3月5日（木）～5月23日（土）
開館時間	＜大阪＞10：00～17：00 ＜東京＞10：00～18：00
休 館 日	＜大阪＞水曜日、12/27-1/3、2/16 ＜東京＞水曜日
会 場	LIXILギャラリー 大阪会場：大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階 東京会場：東京都中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA2階
入 場 料	無料
企 画	LIXILギャラリー企画委員会
制 作	株式会社LIXIL
協 力	江川三郎八研究会、清水重敦（京都工芸繊維大学 教授）、 真庭市・真庭市教育委員会
展示デザイン	+ 建築設計 田代朋彦
会場グラフィック	関田浩平

展覧会について

江川三郎八（1860-1939）は、故郷の福島と赴任先の岡山で県の建築技師として、学校、警察署、銀行などの擬洋風建築を主に、多くの建築設計に携わります。岡山では「江川式建築」と呼ばれ、同県の建築デザインを特徴付けるまでになりました。その真骨頂は福島で出会った洋式の橋梁構造（トラス）を取り入れた独自の「江川式小屋組」です。「遷^{せんきょう} 喬 尋常小学校本館」（旧称、1907、岡山、国指定重要文化財）の講堂が好例で圧巻の大空間を創造しました。これを筆頭に、いくつか共通する江川好みの豊かな意匠、また日本建築の寸法体系など元堂宮大工ならではの癖もまた江川式建築に独特のリズムと印象を与え愛着が湧きます。江川式建築は、自伝『生ひ立ち之記』の存在とともに、長らく在野で熱心な探索・研究がなされる中、学術的に注目されたのが2004年の「旧吹屋小学校校舎」（1909、岡山、県指定、修理工事中）の調査です。その際、県内でいくつもの江川式建築が調査の対象となりました。2013年には同県で江川三郎八研究会が有志メンバーで結束され、彼らの研究と普及活動により岡山ではさらにその存在と価値が知られるようになります。福島でも現存する該当建物は少ないものの、県下での調査活動が始動しています。

本展では、「江川式」が特に色濃く出る時代の建築のうち、岡山から8作品、また福島からはその源流とも考えられる1作品の計9作品を撮り下し写真と解説で紹介します。その他関連の模型4点等実資料や、かつてあった作品も豊富な古写真でご案内します。幸いにも現存作品が多い江川式建築です。同展を機に江川式建築に触れていただき、当時の風景を思い浮かべながら、その魅力をご堪能ください。

写真 2



●主な展示と見どころ

<現存する江川式建築9作品を取材、撮り下ろし写真と解説でそれらのエッセンスを紹介>

文化財建造物の撮影を得意とする建築写真家・小野吉彦による撮り下ろし写真（写真1～4）で、江川式建築の見どころを余すところなく紹介します。

明治の全国的な学校建築ラッシュの中、岡山に赴任したばかりの江川は県下市町村の小学校・幼稚園を多く設計します。

（写真2）は映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の舞台にもなった先述の「遷番尋常小学校本館」。木造二階建てで装飾的な中央部が強調された左右対称の大規模な校舎です。外観には江川式建築を特徴づけるバッチンの意匠。これはトラスを意匠化したものとも考えられ、で他の作品でも頻繁に見られます。

（写真3）は同小学校本館中央棟の2階全体を占める広大な講堂で、二重折上格天井が圧巻。この無柱の大空間を可能にしたのが「江川式小屋組」と自身が名付けた天井裏の木造トラスです。江川は、福島在任中、「須賀川橋」など洋式の架橋工事に携わり、力学的知識を深めました。そして、橋を彷彿させる構造や意匠を江川の建築の大きな特徴としていきます。

同作品については、写真以外に建物に付随していた和瓦スレートや五輪塔を模した屋根飾りのフィニアルなど実資料も展示します。

（写真4）は「旭東尋常小学校附属幼稚園舎」（旧称、1908、国指定重要文化財）。江川好みのマンサード屋根に、八角形の中央棟から四辺に切妻棟が放射線状に突出するというユニークな平面デザインで近代建築史上にも高い価値を持つ作品です。中央棟は広く開放的な遊戯室となっています。

<構造模型でみる江川の木造トラスの進化！>

（写真5）は同じく八角形の棟（遊戯室）をもつ、江川が関わったとされる「倉敷幼稚園舎」（旧称、1915、国登録有形文化財）の構造模型（1/30、所蔵：真庭市・真庭市教育委員会、撮影：小野吉彦）。違いは八角形の遊戯室中央に、前者は柱が立ち、後者にはそれがないことです。前者はまだ和と洋の小屋組みが混在し柱が必要でしたが、後者では完全なトラスに進化させ、無柱空間をつくり上げました。会場には旭東と倉敷の両幼稚園舎の外観模型と構造模型を展示します。見比べてご鑑賞ください。

<古写真でみる江川がつくった岡山・福島の風景>

自伝『生ひ立ち之記』（1929、古希の年）により、岡山と福島で江川が携わった建築がいくつも明らかになります。ここではかつての絵葉書から、それらが写る当時の両県の風景写真25点を八角形のパネル空間で紹介します。（写真6、画像提供：江川三郎八研究会）は岡山の街角に立つ3つの江川式建築が写る古写真です。中央に「戦捷記念図書館」、その右最奥に「岡山県会議事堂」、右端には「岡山警察署」。江川の建物が街を彩る様が伝わります。さらに、江川を「江川式小屋組」に至らせたきっかけとなった2代目「須賀川橋」（1892年、福島）の古写真（写真提供：永山祐三）も展示します。県内初の美しい西洋式木造トラスの橋梁です。

写真 3

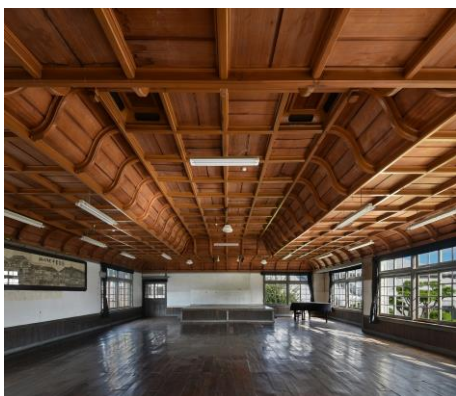


写真 4



写真 5



写真 6



<その他の、本展で紹介する現存の江川式建築（推定も含む。すべて岡山、旧名称、撮影：小野吉彦）>



金光中学記念講堂（1904、国登録有形文化財）



倉敷幼稚園舎（旧称、1915、国登録有形文化財）



土居銀行津山支店（1909、国登録有形文化財）



総社警察署庁舎（1910、国登録有形文化財）



矢掛中学校明治記念館（1915）



木山神社拝殿及び善覚稲荷神社（1919、国登録有形文化財）

リリース用画像

本リリースに掲載された画像（写真1～6）の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。また、ウェブサイトにはその他の画像も掲載しておりますのでご確認ください、お問い合わせ下さい。

<https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g-1912/>

関連企画のご案内

〔講演会〕「江川式、建築の秘密をときあかす」 終了しました

会場 LIXIL ショールーム大阪

日時 2020年2月11日（火・祝）14：00～15：30

講師 清水重敦（京都工芸繊維大学 教授）

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム

大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 11階

費用 無料（※要予約、定員70名）

予約方法 電話もしくはホームページから

新型コロナウイルスの感染予防のため、以下の講演会を中止いたします。
ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

〔講演会〕「江川式、建築の秘密をときあかす」

日時 2020年4月23日（木）18：30～20：00

講師 清水重敦（京都工芸繊維大学 教授）

会場 AGC Studio（東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館2F）

費用 無料（※要予約、定員80名）

予約方法 電話もしくはホームページから

内容

江川三郎八が建てた「吹屋小学校（M42年）」（岡山県指定文化財）の調査がきっかけで、岡山県に残るいくつかの江川式建築の調査を試みた清水氏。その経験から、「江川式建築」には独特の魅力があると言われます。元堂宮大工であることと江川自身のこだわりがつくる「江川式建築」。同氏の洞察を加えながらその特徴や魅力を紐解いていただきます。

新刊 LIXILブックレットのご案内



LIXIL BOOKLET

『「江川式、擬洋風建築 江川三郎八がつくった岡山・福島の風景」』

12月発売（72 ページ、本体価格 1,800 円）

* 特別付録「江川式建築カードコレクション」付き

お問合せ

LIXIL ギャラリー（<https://www.livingculture.lixil/gallery/>）

大阪会場／高橋麻希 東京会場／笥天留、村木玲美

xbn@lixil.com



LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。